

早稲田大学文学部演劇映像コース
平成25年度 文化庁 大学を活用した文化芸術推進事業

新しい演劇人<ドラマトウルク>養成プログラム 未来のアートマネジメントに向けて



カリキュラム

カリキュラム・ポリシー

本プログラムのカリキュラムは、演劇の理論と実践、アーツ・マネジメントの理論と実践とが高度な水準で交差する場所に位置づけられるといえるでしょう。講義形式と実習形式を組み合わせるかたちをとりますが、講義形式の場合でも参加者同士の議論を重視します。講師には、日本のみならず世界の第一線で活躍する演劇人を迎えます。社会において演劇が置かれた位置と果たしうる役割を自覚し、芸術としての演劇がなお持っている可能性に賭けようとする人材を育てることを本プログラムは目指します。

1. コア・プログラム

すべての参加者が全日程に必ず参加しなければなりません。

夏期集中講座 2013年9月9日(月)～13日(金)
16日(月)～20日(金) 10:00～17:30(予定)

舞台創造実習 2014年2月10日(月)～14日(金)
17日(月)～21日(金) 10:00～18:00(予定)

世界的に活躍する専門家・研究者を講師に迎え、今日の演劇に課されている条件を総合的に学ぶとともに、知識を実践に、実践を知識に生かすための方法を考えます(別紙参照)。

エルフリーデ・イエリネク『冬の旅』というポストドラマ的テキストを出発点として、プロの演出家・翻訳者・俳優とともに、実践を通じて、観客にとっての経験を構想し、実現することの意味を学びます。

2. オプション・プログラム

本プログラムは以下に掲げるようなオプション・プログラムを通じて、さらに高度な学びの機会を提供します。希望者は、学内外の研究者・専門家とともに研究プロジェクトに参加したり、劇場実習、セミナー・ワークショップに参加したりすることを通じて、知識をさらに深めることができます。

テキスト研究プロジェクト(月1回程度)

主に外国語で書かれた未邦訳テキストを対象として、実際にテキストを読み、場合によっては実際に翻訳しながら、現代演劇のテキストのドラマトゥルギーの特徴を分析し、日本における上演の可能性についての考察と議論を深めます。

劇場実習(90時間程度)

本プログラムと提携する劇場やフェスティバルなどにおいて、受け入れ先の担当者の指導・監督のもとでインターンシップを実施します。フェスティバル/トーキョー、キラリふじみ、TPAM in Yokohamaほかを予定しています。

ドラマトゥルク/ドラマトゥルギー研究プロジェクト(月1回程度)

各国におけるドラマトゥルク/ドラマトゥルギーの理論と実践、その領域の歴史的な拡大と深化、さらにドラマトゥルクの育成のあり方を調査し、基本文献を翻訳するとともに、日本におけるドラマトゥルク/ドラマトゥルギーの条件を議論します。

セミナー・ワークショップ(随時)

国内外の専門家によるセミナー・ワークショップを随時開催します。2013年度は、演出家クリストフ・マルターラーのドラマトゥルクであり、本年までウィーン芸術週間演劇部門の責任者でもあったシュテファニー・カルプ、フランクフルト大学ドラマトゥルギー学科で教鞭を執っていたハンス＝ティース・レーマンらを国外から招聘することを予定しています。

文化政策研究プロジェクト(月1回程度)

各国の文化政策、とりわけ劇場とフェスティバルの制度、人材育成政策、助成・支援制度、アウトリーチ・プログラムなどについて調査し、結果を公表します。

本プログラムへの参加を検討されるみなさんへ

現在の日本において、<ドラマトゥルク>を養成するプログラムを新たに立ち上げることは、何を意味するのでしょうか。

<ドラマトゥルク>という言葉はもちろんドイツ語から借用したものです。<ドラマトゥルク>という職業がドイツでまず成立し、他国に普及した以上、ドイツ語圏における理論と実践が重要な参照項となることはまちがいありません。このプログラムが目的として第一に念頭に置くのも、ドイツを筆頭とするヨーロッパ諸国の劇場において<ドラマトゥルク>と称されているような人材の育成です。きわめて大きくいえば、ドラマトゥルクとは、演劇の研究と現場を往復しながら、一方では、演出家の指揮下で、作品の創造、言い換えれば、観客にとっての意味の構築の過程に加わり、作品と観客をつなぐ関係性の構築に関わる存在であり、他方では、劇場・フェスティバルの監督・ディレクターの指揮下で、作品創造・上演と教育・普及を両輪とする劇場の活動の指針と細部を定めることを通じて、劇場と市民をつなぐためのプロジェクトの立案・実施に関わる存在であるといえるでしょう。

しかしながら、ドイツ語圏で行われていることが、多くの前提を異にする日本でそのまま実現できるわけではありません。<ドラマトゥルク>が職業として定着しているとはいえない今日の日本において、<ドラマトゥルク>を養成しようとするのは、何を意味するのでしょうか。ベルナルド・ドルトがかつて、「ドラマトゥルギーは上演の総体に関わる」ものであり、「舞台装置の考案・製作にも、俳優の演戯にも、狭義の『ドラマトゥルク』の作業にも関わっている」と述べた上で、分業化された「作業としてのドラマトゥルギーよりもむしろ、意識のあり方としてのドラマトゥルギーを問題にしたい」と述べていたことは傾聴に値するにも思われます。

ドルトは<ドラマトゥルク>が職業として確立しているわけではないフランスの状況について語っていたわけですが、日本においても同じように、演劇の上演に関わる者すべてが「ドラマトゥルギー／ドラマトゥルク」的な意識を持つこと、言い換えれば、上演作品の

全体と各部分との関係、歴史と現在との関係、社会／世界と演劇との関係、演劇に対して課されている制約と可能性に対する自覚を深め、作品が生み出す意味に責任を持つことは重要に思われます。日本において、上演作品数だけをとれば演劇界は活況を呈しているように見えるものの、演劇の実践的かつ体系的な専門教育の機会はまだ充分ではない現状、国・地方自治体において文化施設は整備されたものの、多くの場合において経験と勘を頼りに手探りで自らの目的と方法とを見つけないといけない現状を考えるならば、なおさらそのように思われるのです。

したがって本プログラムは、狭義のドラマトゥルクを目指す方々はもちろん、演出家・振付家、劇場監督・制作者、劇作家・翻訳者、研究者・批評家となることを考えている方々にも広く参加を呼びかけます（もちろんそれは俳優・ダンサー・技術者になること、ほかの領域における職に就くことを目指す方々の参加を妨げるものではありません）。とりわけ、演劇に関する大きな問いを共有しつつも、異質な人材が集まって、ともに議論するところから生まれる可能性を重視したいと思うのです。

もちろん、専門的人材を一朝一夕に育てることができるわけではありません。このプログラムが、主として9月および2月の短期間の集中講座を中心に成立するものである以上、なおさらのことです。そのため本プログラムは、演劇の現場あるいは大学において、すでに何らかのかたちで演劇に携わり、一定の知識と経験、言い換えればそれによって可能になる俯瞰的な視座を身につけている方々、とりわけ、演劇と社会のあり方に関わる根本的な問いに関心があり、さらにいえば、答えを見つけること以上に — きわめて重要なことですが、実践を通じて — 問い続けることに関心がある方々に参加を呼びかけるものです。

2013年7月
プログラム責任者 藤井慎太郎

募集要項

応募資格 18才以上の男女
日本語の理解と表現に関して十分な運用能力を有する者
演劇に関する知識および実践の経験を有する者
今日の社会と演劇との関わり方について強い問題意識を持つ者
作家、翻訳家、演出家、制作者、研究者など、演劇に関わる職に就いている／就こうとする者
コア・プログラムに全日程を通じて参加が可能であり、オプション・プログラムにも可能な限り参加する意欲を持つ者

*なお、本プログラムでいう「演劇」とは、舞踊やパフォーマンスなどの隣接領域も含めた広い意味で用いています。

なお、必須の条件ではないものの、外国留学経験、外国語の高度な運用能力（翻訳の経験があればなお望ましい）、外国演劇に関する深い知識を持つ者の参加を強く歓迎します。

定員 一般 約10名
早稲田大学在籍者・出身者（学部・研究科は問わない） 約10名

参加費用 無料

応募〆切 2013年7月31日（水）17時 ウェブサイトを通じて応募してください。
www.engkieizo.com にプログラム詳細および申込フォームを掲載します。

選考方法 提出書類をもとに審査委員会が審査し、8月中旬までに結果をメールにより応募者に通知します。

提出書類 ウェブサイトの応募フォームを利用してください。いただいた個人情報は本プログラムの目的以外には使用しません。

1) 履歴書 高校卒業以降の学歴、演劇に関係する職歴がわかるように記してください。
特に選考の上で役立つと思う部分を具体的に記してください。

2) 小論文 自分がつくりたい／関わりたい／支援したいと思う演劇のあり方を、2000～4000字程度で記してください。
小論文に代えて、企画書のかたちをとってもかまいません。

問い合わせ先

電話 03-3208-7866（早稲田総研インターナショナル 平日10:00～17:00）
メール dramaturg@list.waseda.jp



主催 早稲田大学文学部演劇映像コース



助成 平成25年度文化庁「大学を活用した文化芸術推進事業」